



○ 専各協研

21日(月)に山口市の翠山荘にて開催された一般社団法人山口県専修学校各種学校協会主催の平成29年度現職教職員研修会に参加しました。表題はその略称です。私は基本的には言葉を省略して表現することに抵抗があり、長いことばでもできるだけそのまま話したり記述したりしようと努めています。以前「しょくせん」という業界ことばが理解できず、始めのうちは会話に加われなかったことがありました。恥ずかしいけれど「しょくせん」って何ですかと近くの人に尋ねました。するとその人は「もう一つ『職専免』ということもあります。正しくは『職務専念義務の免除』です。」と応えてくれました。勤務時間内は自分に与えられた業務(職務)内容に専念しなければならないことが原則であるが、その職務遂行にかかわる資質向上のために職場を離れて研修等に参加することができる。というような意味です。

本たよりではオープンキャンパスのことをOC、コミュニティ・スクールのことをCSなどと表現することがあります。これは文字数節約のためです。ご理解をお願いいたします。省略ことばのことについてはまたどこかで記述したいと思います。今回はここまで。

さて、専各協研では二つの講演がありました。講師はYICグループ統括本部長の岡村慎一氏と県立山口高等学校教諭の久原弘氏です。一つ目の内容はキャリア教育を中心にチームワークづくり、評価(褒めること)の重要性、構成的グループエンカウンターのことなどでした。説明を聴くだけでなく、隣や前後の参加者数名と演習をしていきました。最初は初対面ですから遠慮や気恥ずかしさが伴いますが、人と知り合いになるということは楽しいですね。知り合いになった三人の方と私の共通点が一つずつ見つかりました。野菜づくり、柔道、バスケットボールでした。詳しくは紹介できませんが、不思議な偶然を感じました。ご一緒した中のお一人は「私は教員ではなく事務職であるけれど、学生と接することは多いです。一つ心がけていることがあります。」と言われました。それは「ある仕事(業務)を誰かと一緒に行く(手伝ってあげる・もらう)時には『すみません』ではなく、『ありがとうございます』ということばを遣いたいと思っています。」とのことでした。「すみません」というのはよいことばだけでも、「ありがとう」の方がいい場面が確かにあるなど気づかせていただきました。

二つ目の内容は通信制高校の生徒たちとの教育相談(カウンセリング)のことが中心でした。私もこれまで事情によりいろいろな施設から通ってくる小中学生と接してきましたので、内容は具体的に想像できました。高校生たちの悩みなどの状況は皆違うけれども相談内容の70%超が進路(キャリア)関係だという報告に、今専門学校にかかわっている我々の役目の大切さを思いました。話の内容は深刻なものからアニメなどを取り上げた楽しい話題など多方面にわたりました。講師の方の年齢は10代の若者よりも私に近いのでうなずくことも多かったのですが、熟年の常識は若者の常識ではないということで“若者文化”にも接しておく必要性を感じました。四人グループで話をしたときに「巨人の星」の話題を取り上げたけれど、一人の若者には通じなかったかな?

自校自賛



8月の壁画：光駅